

福岡市の商店街の現状について

平成30年6月21日
福岡市経済観光文化局地域産業支援課

福岡市の商店街について

○商店街とは・・・

法律に基づく、商店街振興組合、協同組合などの**法人**
店舗が規約等に基づき任意に組織（団体）を形成している
任意団体

○福岡市内の商店街の数 = **138商店街**
（平成29年度「商店街実態調査」から）

※ H25調査：153商店街 H21調査：162商店街

市内の商店街の数【138の内訳】

商店街振興組合12 協同組合15 任意団体100
連合組織（複数の商店街で構成される団体）11

○商店街のタイプ

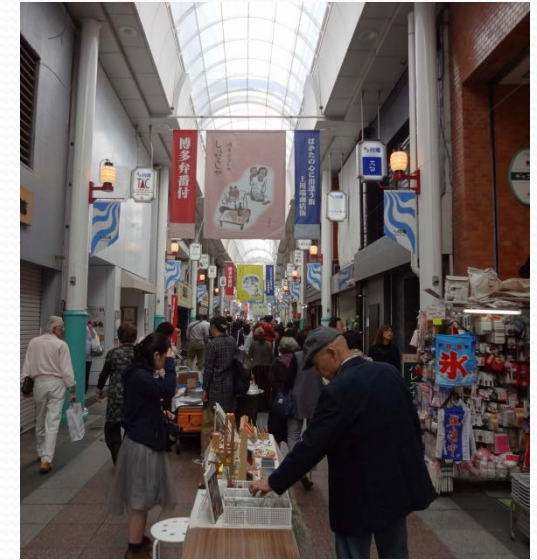
- ▽ **近隣型商店街（53商店街）** : 最寄品中心で、徒歩又は自転車由来街
- ▽ **地域型商店街（37商店街）** : 最寄品及び買い回り品店が混在
- ▽ **広域型商店街（16商店街）** : 百貨店・量販店があり、買い回り品店が多い
- ▽ **超広域型商店街（6商店街）** : 百貨店、専門店が中心で遠距離から来街

※最寄品：日常的な食料品や日用雑貨など、消費者が頻繁にほとんど比較しないで購入する商品

※買い回り品：ファッションや家具、家電など、消費者が2つ以上の店を回って比較して購入する商品

商店街の形態も様々

アーケードが有り、
イメージしやすい商店街



大型店舗のテナント会



地域の中に店舗が点在している商店街



商店街の役割

①地域住民の暮らしを支える買い物の場の提供

⇒ **「地域経済の担い手」**

②地域の交流・にぎわいの場の提供

⇒ **「地域コミュニティの担い手」**



商店街は、地域住民の身近な買い物の場を提供する **「地域経済の担い手」** としての役割。

地域の安全安心のための防犯カメラや街路灯などの設置、交通安全運動などへの参加、高齢者などの買物弱者対策として出張販売や宅配サービスを行うなど、地域の期待に応えながら、 **「地域コミュニティの担い手」** として地域に貢献。

地域の活力を支える重要な存在！

福岡市の商店街の課題

(平成29年度「商店街実態調査」から)

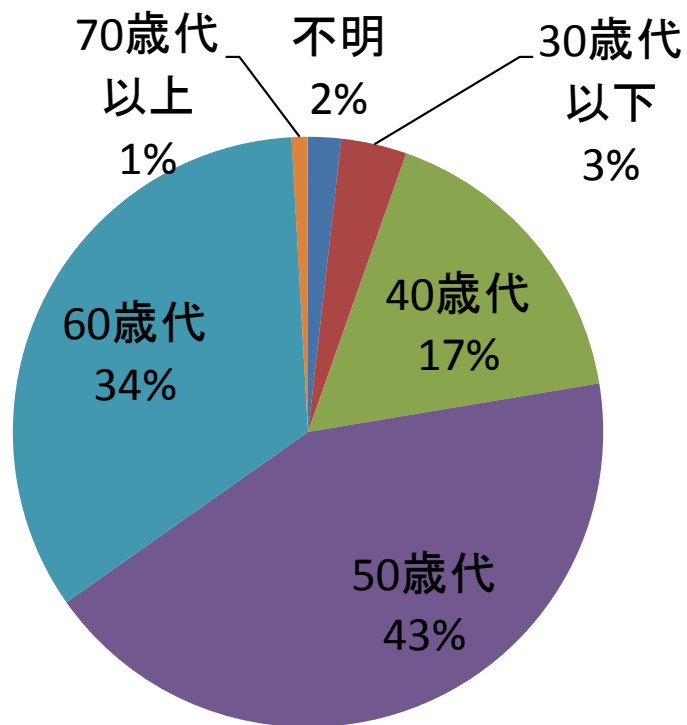
商店街が抱える課題 ⇒ 人材に関する問題が多い!

- 「商店街役員の担い手が不足している」 57.1% (48.2%)
- 「次世代を担う若手がない」 31.9% (33.9%)
- 「商店街に集客の核となる店舗がない, 又は弱い」 31.9% (31.3%)

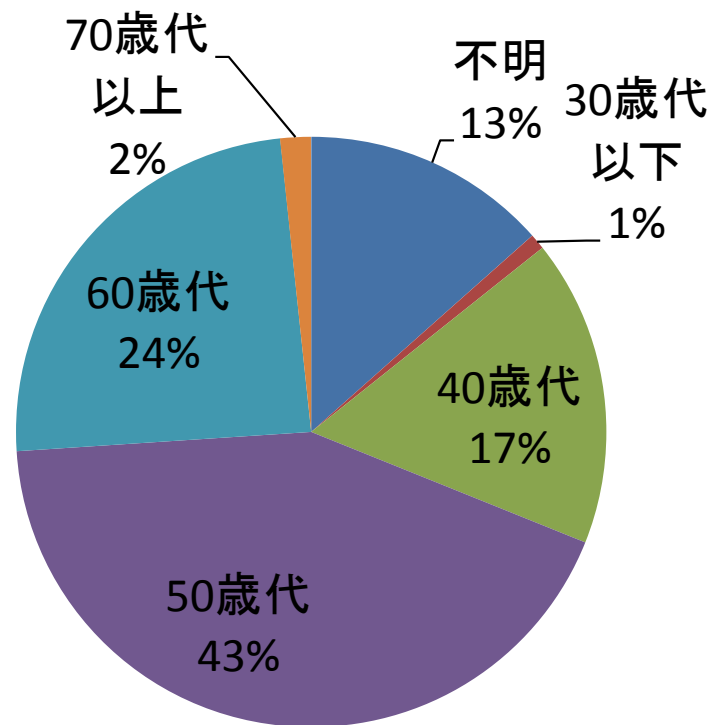
※ () は平成25年度の調査時

商店街の会員の平均年齢（平成29年度「商店街実態調査」から）

【H25】



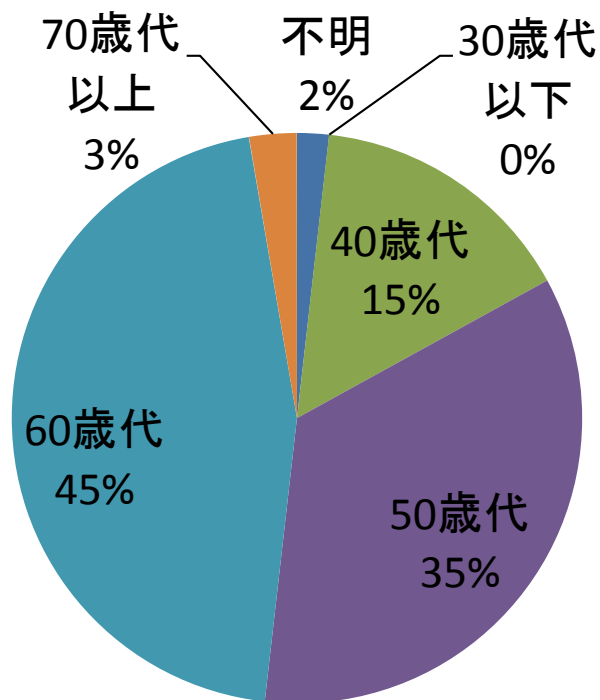
【H29】



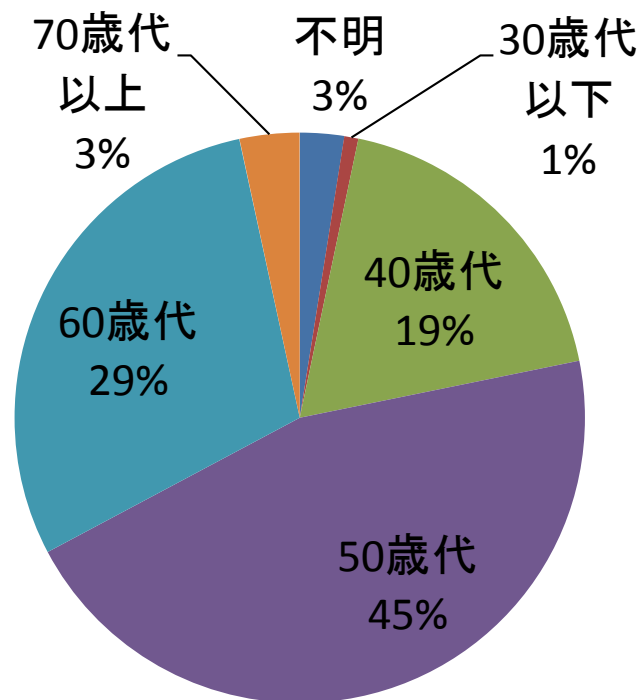
平均年齢が50歳代以上の商店街がH25は78%，H29は69%となっている。

商店街の役員の平均年齢（平成29年度「商店街実態調査」から）

【H25】



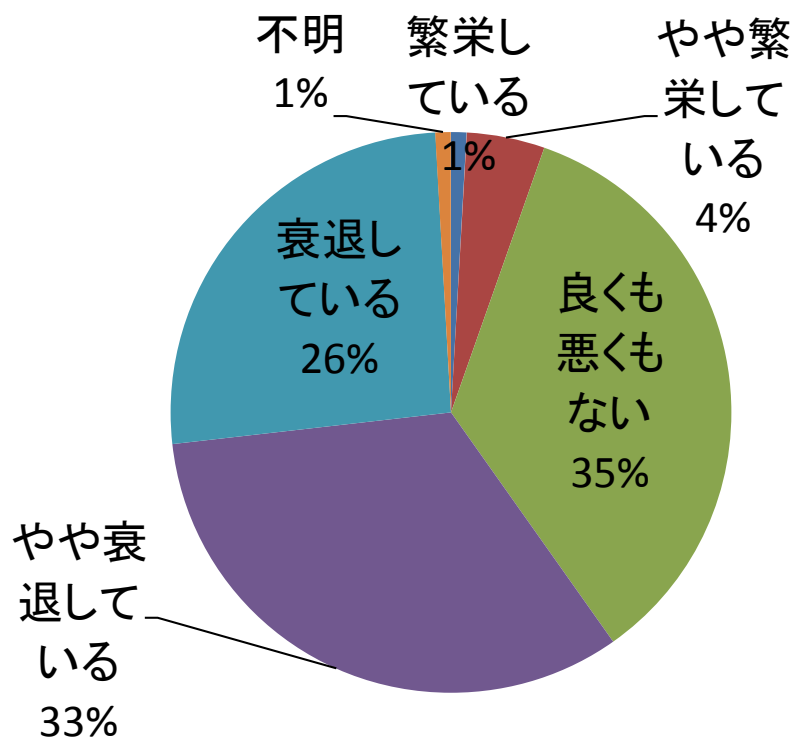
【H29】



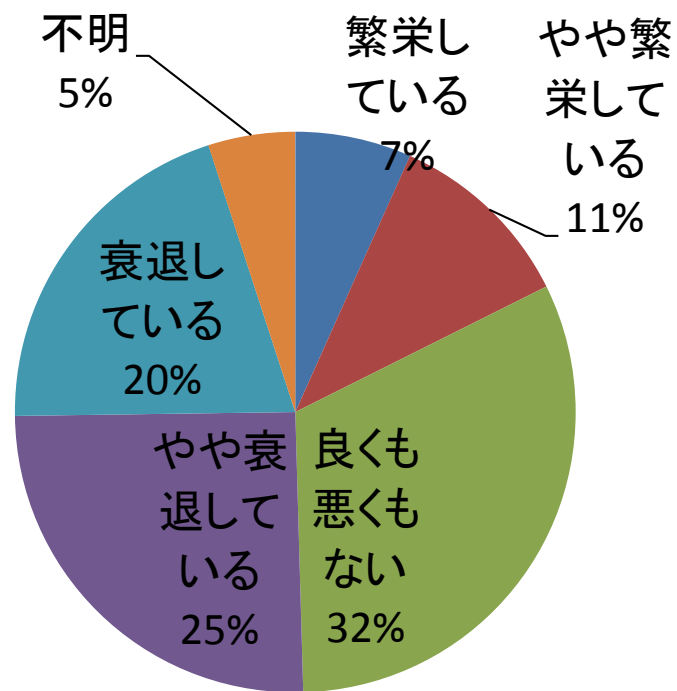
平均年齢が50歳代以上の商店街がH25は83%，H29は77%となっている。
※全国の商店街の結果では，70歳代以上が31.1%，60歳代が42.5%，50歳代が18.9%となっており，全国の結果と比べて若い。

商店街の景況（平成29年度「商店街実態調査」から）

【H25】



【H29】



H29の「繁栄している」「やや繁栄している」の合計は、18%となっており、前回調査（H25）時よりも13ポイント増加している。

福岡市の商店街の空き店舗について

(平成29年度「商店街実態調査」から)

空き店舗がある商店街47.1% (57.1%)

空き店舗数の平均2.6店舗 (3.4店舗)

※ () は平成25年度の調査時

⇒ 空き店舗のある商店街の割合, 空き店舗数の平均は,
前回調査時点 (H25) に比べ, 減少している。

総括

- ・平成29年度の実態調査結果によると、空き店舗のある商店街、空き店舗数の平均の減少、商店街の景況も改善の傾向が見える。
- ・このような中、商店街の約7割は会員の平均年齢が50歳代以上となっており、役員の平均年齢が50歳代以上の商店街は、約8割ある。
- ・役員の平均年齢は、全国の結果と比較すると若いですが、商店街の抱える問題点として、「役員の担い手が不足している」「次世代を担う若手がいない」といった人材に関する問題が多い。